

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和5(2023)年  
4月号  
通巻632号  
毎月23日発行  
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和5年4月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)45-1192  
★印刷 大倭印刷  
★定価 1部 300円  
年間購読料3,500円(送料共)  
★郵便振替 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



令和4・3・30 和歌山電鐵貴志川線大池遊園

和歌山県岩出市 森脇聖淳さん撮影(文・8頁)

昭和42(1967)年4月8日 須佐緒祭法話より

## 横の結びにおいてお互いの人間的向上をはかる

法主 矢追日聖(満55歳)

### 横の結びと縦の結び

神ながらの宗教において、横の結びつき、つまりお互い人間同士が仲良くいくことが一番大事だと思うんです。

須佐緒祭は、そうした意味においての結びとすることが、ひとつの祭典行事になっておるんです。何も今日一日だけ結びつくというわけじゃありません。人間が生まれて死ぬまでの間、そういう心の働きがなければいけないんですけども、今日はその記念日のような形になるんです。

四月八日は、東洋の聖者である釈尊のお生まれになった日らしいです。それが大倭の須佐緒祭であるということは、特別に関連性はないんですけども、人間のお互いに結びつくという記念祭を大倭においても行うのがいいという、これも霊界からの指示に基づいているんです。

二月の節分には、玉緒祭というのを大倭でやっておりますが、その時には縦のつながりという話をしました。今日のお祭りは横のつながり、横の結びつきということなんです。

全て宇宙の仕組みというものは、縦の関係と横の関係がきっちりと結びあっていないと成り立たない。これはひとつの原理でありまして、実際の生活の中でそのバランスのとれたゆき方をするということとはなかなか容易なことではありませんが、今日は横の結びつきということについて少し話をいたします。

## 一方的に流す法話になっている

これは毎月の月次祭でお話しする内容と変わらないんです。その時その時の雰囲気によって表現の仕方とか言葉はちがいますけれども、その裏に流れておる言わんとするところは、何十年か同じことばかりなんです。

およそこうして一方的に話をする、皆さんがそれを聞かれるという関係を繰り返しても実際の生活にどれだけ役に立っているか、どれだけ効果があるだろうか、時によれば私は考え直すんです。理屈だけ分かかっておつても、生活の中において生きてこなければ何もならないと、常々私は気持ちの中に持っております。で、祭典後の三十分、法話を流すことを、もう止めたらどうかというようなことも考えるんです。

それよりもあなた達自身が持つておられ、自分の中から出てきたものをお互い話し合つて、それによって修養し人間の向上をはかっていく。そういうのが一番いいんじゃないか。それで祭典(行事)の私の話の後で、座談会もしておりますが、これもあまり大した効果はないと見ているんです。

ただ集まって来て、皆さんに手を合わせて拝んでいても、その神さんたるやどういふものであるか、自分で肌感じて掴んでおられる方がどれだけあるかという問題なんです。

普通神さんとは、昔からの言い伝えで訳の分からん、何か知らんけど、超人間的な偉大なものがあるんやというくらいで、抽象的、観念的には分かっているかもしれません。けれども自分自身の肌感じて、心の中に神さんを掴んでおられるという方はあまりないだろうと思うんです。

もしそういうような方であれば、この現界を超

越した世界において生きていけるでしょう。けれどもそれが分からないから、俗っぽい、生臭い、苦の多い、悩みや迷いの多い世界を自分で作つておるといふことになるんです。

## 自然の流れで形が出来る

ところが今日の場合、大倭の会館が建設されるについて発起人さんから始まって建設委員さんが具体的な相談を後でやられるらしいので、こういうものが私は非常に望ましいと思うんです。

今までの大倭は、これもやはり神さんからの指示によって大体二十年間、隠忍自重したような、根をおろすための冬眠状態であったんです。しかし、これからはぼつぼつ外に動き出す。そういう時に当たり、大倭の会館的なものが、ひとつの形として出来てくるんですね。

これは人間が作る仕事ですから、金も集めてお互いに皆が努力しなければ出来ない。もし早急にやらなければならぬものであれば、皆の努力が実を結んでとんとん拍子にいくだろうし、そう必要でない場合は、二年あるいは三年と日がかかっていくかもしれないし、そこは神任せです。出来るだけの能力を発揮して真面目にさえ仕事すれば結果というものは、我々が出すんじゃないか、自然の流れの中に表れてくるはずなんです。

しかし大きな流れから見ると、大倭においてはそうした人間が利用する建物がそろそろ必要な時期になってきていると思うんです。

## 霊の世界における向上

今日までの過去を振り返ると、毎月の月次祭に私は皆さん方に一方的に話している。あなた達に

聞いてもらつても聞いてくれなくてもかまわない。祭典が済んだらひとつの決めつけで、私が話しようとすることになっているんですから、三十分の間しゃべっています。一面、そんな猿回しのような芸当はしたくないんですけども、半面、何億という霊界人が同時に聞いてくれるんですよ。非常に待つてくれております。三十分の間声を出してしゃべったことが無限大なる宇宙の中に残っている。ただ人間の耳に聞こえないというだけであつて、何億万年向こうへ行つても絶対消えていないんです。

霊の世界の人達は、私という人間の口を通して音波で言葉を聞き、それによって霊界において向上できるんです。霊界人同士では、一生懸命に修行しても話し合いても全然浮かばれない。霊界人の向上というものは、生きている人間、現界人との結びつきがなければならぬことになっているんですね。

現界人同士も互いに横の結びつきがなけりゃいけないし、現界人と霊界人との結びつきもなければいけない。この大きい横の結びつきが、「すざのお」の働きということなんです。

私がひとつの言葉として発する以前に、心の中にはその言葉の何倍か、いろいろな深い意味を含めた働きを持つていらるんです。あなた達でも人と会話する場合、口に出す言葉以外に相手の人に対しての心の働きというものがあはずです。その中のなんぼかが言葉として出ているんですね。

その言葉以外の心の働きというものも、何億という霊界人達に全部通じておるんです。だから今三十分の話だとしても、霊の世界では我々の時間にして何十時間、何百時間にも延長して聞くだけの内容を持つておるんです。今日でも大倭に縁のある霊界人は、この言葉を聞いておるはずなんです。

そしてまたやはり一步一步霊の世界において向上してくる。

## 喜びも苦しみも回る回向

身近なところでは、あなた達の肉体の中に、また血液の中に伝わっておる先祖霊も今日の祭典に皆一緒に参加して聞いております。現界の子孫と共にこの祭典に参画できるという、そこに先祖さんの喜びがある。先祖霊が喜びを持つということが、現在生きておる子孫のところへ、ええ意味においての報いとして出てくるんですね。

逆の場合も言えるんですよ。よく先祖さんが崇めて子孫が悪くなるとか聞きますけども、事実あり得ることなんです。何も先祖さんが子孫の者をいじめたり苦しめたりそんなことはないんだけど、先祖霊が苦しんでおれば、その心が子孫に反映して、先祖さんを理解しなければならぬような苦境に陥ってくるんです。

それをまた宗教によつては、先祖さんさえ大事に回向供養して喜ばせれば、家庭の中は都合良くいくし病気でも良くなるんだというように教えておることもあります。それは何もウソを言っていないだけども、そういう一方的な見方をして、坊さん呼んできてお経をあげたら先祖さんが浮かべれるとかね、教え方が間違っているんです。

先祖さんの本当の喜びというのは、子孫の日々の生活の心の問題にあるんです。形において壇にだけ物をお供えようが、お坊さんが来てお経をあげようが先祖さんとおそらく関係ないんです、まあ多少はあるとしても。

それよりも子孫の家族同士がお互いに仲良く、また世間の人々とも仲良くいくことなんです。そして我が家一軒の先祖さんだけやなしに世間のど

この家にも先祖さんがあるんですから、この日本の国を今日までつくり上げてくれた過去の人達のお陰に対し感謝する気持ちにおいて生活する。例えば世間の人達の福祉につながるようないろいろな仕事をする。ということは自分の生活以外の余力を人々が喜ぶような行為にもついていた場合に、先祖さんが一番先に喜んでくれるんです。

その喜ぶ心が子孫に出てきて、また子孫が喜びを持つ。先祖さんと子孫、子孫と先祖さんというようにくるくる回ってくる。それを仏教では因果因果とか回向とかいう言葉で表現しているんです。

けれども回向と言ってもあながちええ意味ばかりじゃない。もし悪循環になって先祖も浮かばれないければ、現在の家もみじめになるという場合もあるということなんです。

## 互いに自分を知る学びの場

幸いにしてですよ、大倭に会館が出来たと仮定すれば、私が一方的に話をするんじゃない、仲間同士寄ってお互いに迷いとか悩みを解剖していく、そういうような場というものが出来ることになるんです。今は朝出て来て帰りのバスが何時やろかと時間にくくられていますが、食べ物も持ち寄りたり炊事して例え三日なり一週間なり寄り集まって、同じ部屋で寝起きする。その中で、悩みを持つてる人、迷いを持つてる人がだね、自分の家の中のいろんなことも洗いざらい出し合って話し合うわけです。

ただ一人では知ることは難しい。禅宗のように座禅してお寺の中で自分で考えたって、なかなか結論は出にくい。それよりもお互い同病相憐れむでね、一人で悩んでおったのが、社会の皆が同じ

ような悩みを持っていると分かった場合に、自分の今日までの考え方を翻して段々と良い方に向けていくと思うんです。

そういうひとつの横の結びつきというものが大倭において非常に必要だろうと、私はいつも希望はしておったんです。ところが昨年あたりからそういう声が出てきていまして、これは時機の問題だったんですね。

こうして一方的に話をするということに対しては、私自身がもう飽きがきています。二十年、三十年同じことばかり言うているんですけれども、あんまり効果がないと思つてます。私の場合は先程も申しましたように半分霊界というものがあるので別に効果がなくてもかまわない。

けれども、大倭の会館のようなものが出来た場合にはですよ、そこで教える者と教えられる者ではなしにお互い皆が、自分というものを自分で見直し、自分の間違つておるところを自分で直していくという形において、一人一人が人間的に向上してほしいと祈るんです。

## 全部が尊い、無駄なものはない

私は大倭教の創始者ですから、まあ一番偉いさんとかそういう言葉を使うかもしれません、この世の中に誰が偉い誰があかん、誰が偉いから人を裁くとか、人に対して指図するとか、そういうものは神ながらの法にはないんです。お互い皆が尊いというのが自然の仕組みなんです。この世の中に無駄なものは一切ない。神ながらの原理では全部一体なんです。

全てを一つとして見ていくのが神ながらの一体感ですが、人間の肉体から出発したら分かりやすいと思う。顔の皮もあるし足の裏にも皮があるん

ですが、顔の皮は毎朝起きると洗ってもらいよるし化粧もして一番先大事にしてもらうけど、足の裏の皮なんか体重を支えるようなえらい重労働をやっています。それを別々に切り離して考えたくないんですが、顔の皮と足の裏の皮、これひっくり返すことできないんですね。顔の皮と足の裏の皮とどっちが偉いんか、ということになってきたらさあ誰でも一つやと考えますわな。形において顔の方がええわいと言うか知らんけど、顔の皮の方が偉いとは言わんでしよう。事実是一体なんですよ。

社会の中には、能力のある人もおれば、能力のない人もおる。また知能の優れた者もおれば生まれつき鈍くさい者もおる。手でも器用な人もおれば、不器用な人もおる。皆、差があるように出来ておるのが神ながらですね。

だから顔の皮と足の裏の皮とは別々なんです。同じじゃない。差別に出来ておるけども、その一つ一つ個々に見た場合にはその中にみんな尊さがあるんです。その尊さをだね、我々はお互い認め合う。知らなきゃいけない。人の尊さも分かる代わり、自分自身の尊さというものも考えなきゃいけないんですよ。

だから、すぐにあの人は偉いとか、わしやあかんとか言うのは、大倭の皆さんにはまず無くしてほしいと思うんです。これは大倭の宗教に入る序の口なんですよ。

誰が偉い誰があかんという、いわゆる優越感とか劣等感とかですね、そんなもん全部さーっと流した人間でないとなんかの宗教というものは、本当の神さんの心というものは何年経ったって絶対理解できない。

そういう意味において、私も皆さん方と同じ平々凡々の立場なんです。まあ皆さん方から見れば、

私は顔の皮になっているのかもしれないけれども、これは偉いという意味じゃない。顔の皮は顔の皮の役目を果たせばよい、足の裏は足の裏の役目を果たせばよいということ、そういうものをみんなが持ち寄って初めて、一体で満足なものが出来てくるんですね。自分は一体の中の一部分であってみんな平等であるという、神ながらの原則をよくわきまえてほしいと思う。

### 須佐緒祭の名称の意味

須佐緒というのは、土壁を結び合わせるために中に入っている「すさのお」のことです。昔から大和ではそう言うんですね。(※劬・寸莎||壁土にまぜて亀裂を防ぐつなぎとする繊維質の材料/緒||糸や紐など『広辞苑』より)

心にもそのような「すさのお」がなけりやいけない。ということとは仲良うするため皆が手を握る結びつきが須佐緒ということ。仲良うするということは皆観念的には分かっていますけれども、実際問題としてはあいつ嫌いとかどうとか、差別もし偏見も持つ。そんなものをなくすように皆さん方もよく考え、宇宙の仕組みの心に戻る、一人一人が宇宙の心に近づこうと努力してほしい。

今度の会館なんかは、裏に流れた大倭の宗教的ゆき方が段々と芽生える、そういう意味において役立つものになってくれればと、これは私の願いなんです。

頭幽両者かみ合わせた心の結びつきの記念日である須佐緒祭に、委員さんが集まって具体的に話し合ってくれるというので非常に結構なことだと思えます。一日でも早くそれが神の意に沿った形において竣工することを希望するんです。

(文責・編集部)

### 学びを暮らしの中でどう活かすか？

神奈川県藤沢市 伊藤 裕司

テーマは「あなたは宗教を暮らしの中でどう生かしていますか？」などで、というお話をいただいたのですが、どうも「宗教」という言葉がなじまない(すいません)。見えない世界も含めた「学び」の活かし方というタイトルにさせていただきました。

普段の日常の中で、自分を観察することも、わりと大事に思っています。「自分はこういうことで自分に怒ってるのか」とか「自分はこういう時に悲しみや虚しさを感じてるのか」とか。自分で分かっているのも、自分がいい方向に変わっていく上でいいなと思うのです。

いつもすがすがしい、明るい気分ではないところですが、いろいろ思うこともあり。「もうちょっと気が利かないものか」とか「いらぬことに時間をかけすぎたかな」とか。そう思いつつ、「反省してへこんでるより明るい気分にいる方がいい流れになるかな」とか。

それでも、やろうとしてることがちゃんとやれて、すがすがしい、明るい、スッキリした気持ちでいられたら、何か、どこかに自ずとある流れに乗れているような気がしたりもします。

乗る流れにちゃんと乗ってれば、必要なものは、きっと大きな流れの中でやって来てくれるだろう、みたいな気分です。

それはきつと、どこまでも、アタマの理解を超えているような。

あたたかい春の日に、風のやさしさを感じて歩いて行けるような、そんな気分です。暮らしにいいなと思っています。

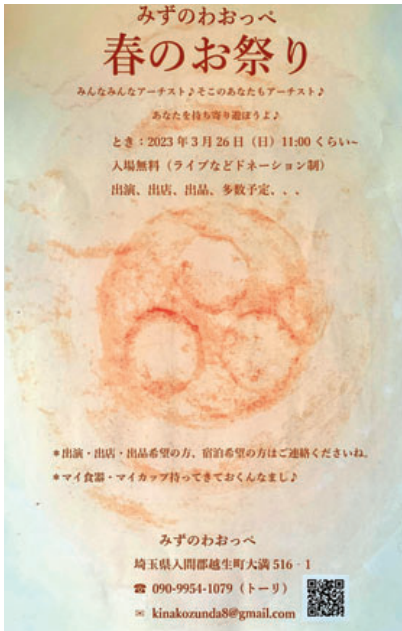


# こづんまりと自分たちなりのお祭りを重ねてきて

埼玉県越生町にて

## 春のお祭り 菅井 勇紀(きんちゃん)

みなさん、こんにちは。今回『おおやまと』の原稿を書かせてもらえることになりました。最近思うことなどを書いてみようと思います。近々、うちで「春のお祭り」を開きますが、サブタイトルが、「みんなみんなアーチスト そのあなたもアーチスト あなたを持ち寄り遊ぼうよ」です。アーチストという何だかおしゃれでスマートで特別な感じがしますが、アーチストというとちよつと庶民的で気軽な感じがします。さて、なんでこのサブタイトルにしたのかということですが、どんな人でも一人一人に命があつて個性や特性や才能があると思うのです。人は動物でもありますが、想像力と創造力があるのが特徴だと思います。ささやかでも何か作り出したり生みださうとする一歩は、自分では忘れていた個性や特性や才能に気づいていくことにもなると思うので



### ▲みずのわおっぺ 春のお祭りのお知らせ

▼おっぺの裏山に昇る太陽。こんなお日さまがあらわれ!びっくり。調べてみたら花粉が舞うとこうなるようです。



す。それは外からの評価の前に、自分の内側に響く喜びになっていくのではないのでしょうか。そして、ささやかでもその気づきや喜びを持ち寄ってのコミュニケーションは、開かれた人間関係に「平和だなぁ」と想像しています。さあ、「春のお祭り」どうなるでしょう。

これまで、その時のご縁でやり方や面子(メンツ)が変わったりしながら、こづんまりと自分たちなりにお祭りを重ねてきて、様々ありましたが、何はともあれシンプルに、人も動物も見えざる存在感もリラックスして皆仲良くあれば何よりだなぁと思います。そしていろんなところでその環境なりの、小回りの利くホームパーティ的なお祭りが繋がっていくのもいいなぁとも思う今日この頃です。

追伸・僕は創作楽器を作り歌ったりもしますが、最近楽器を作りながらいくつか思ったことがあります。例えばドとレの間の無限にある音たちを、大概刷り込まれている観念によって「間違

## 魂のお祭り

齊藤 麻希

や雑音」とジャッジしがちでしたが、心のありようで「美しいや面白い」になったりします。これもまた「お祭り」だなぁとも思う今日この頃です。

2018年の秋分に、私たちは魂のお祭りをしました。それは生きている人、死んだ人も含め、たくさんのお魂とともに過ごすお祭りでした。なぜそのようなお祭りをするようになったのか、まずはお話ししようと思います。

とても不思議な話なのですが、私には戦時中の広島で生き、原爆にあつて死んだ記憶があります(埼玉生まれ、東京育ち、広島に縁のある親戚もいない、長年考えに考え、これは前世の記憶なのではないかと思うようになりました)。

1945年8月6日のうちに死んだ私は、生まれ変わつてもなお、原爆で壊される前の広島や原爆で亡くなった人たち、そして生き残ってくれた人たちのことがいとおしくてたまりませんでした。生きている人も死んだ人もみんなが幸せでありますように。世界が平和でありますように。そのため自分には何ができるのだろう。それが私の大きなテーマでした。

2006年、埼玉県東松山市にある原爆の凶丸木美術館に初めて行きました。丸木位里・俊夫妻によって描かれた、原爆にあつたたくさんの人々が描かれた屏風絵です。それが何枚もあり、見る人を囲みます。大抵の人は恐怖や苦しさを感じるであろう絵の中の人々に、私はたまらない気持ちといとおしさを感じていました。

それからしばらくして、急に人間の顔の絵を描くようになりました。追われるようにどんどんやってくる顔の絵の人たちは、みな私の知らない人

です。一体誰なのだろう、そう思いながら、ときどき眺めては一緒に過ごしていました。時間をかけて向き合ううちに、だんだんと顔の絵の人たちの思いや記憶が感じられるようになってきました。彼らはみな第二次世界大戦で亡くなった人たちで、伝えたいことや忘れられない思いがあつて、私のところにやってきたのです。ともに過ごし対話する中で、彼らもまた私の大事な人になっていきました。

2014年に、急に唄が降りてきました。それは広島島の記憶と、平和でありますようにという思いの塊のような唄でした。人前で歌うなんて考えたこともなかったけれど、この唄を歌いたい、広島のこと、平和のことをみんなに伝えたいと思い、ライブをするようになりました。信じてもらえるかわからない、自分の大事な内側の部分を不特定多数の人にさらすことは、私にとつてとても怖いことでした。でも実際にやってみたら、意外なくらい普通に受け入れてもらえたのです。続けるほかに、私はどんどん軽くなっていききました。

しばらくして、私は顔の絵の人たちを連れて行くようになりました。ライブのときに彼らを紹介し、それぞれの思いを語り、来た人たちに聴いてもらったのです。すると不思議なことが起こり始めました。怒り、悲しみ、苦しみを浮かべた顔の絵の人々の表情が、少しずつ和らぎ、やさしくなつていったのです。向き合い聴いてもらうほどに、みんなの顔は明るく軽やかになっていきました。それを見て私は、いつか顔の絵の人たちを燃やすときがくるなと思いました。彼らから、もういいよ充分だよと伝わってきたら燃やすとき。それは自分の意思というより、そうするんだよと言われているような感じでした。ご縁の人たちにも向き合ってもらいながら、彼らと年月を重ねていき

ました。

ある日のこと、友人を通じてゆう琴という楽器に出会いました。なんとも言えない美しい響きのこの楽器は、おっぺ(旧おっぺ美術館)に住むきんちゃん(菅井勇紀)という人が作っているとのこと。ゆう琴に魅かれた私は、自分も作ってみたいと思ひ、友人におっぺに連れて行ってもらいました。

そこは独特な空気感のある場所でした。ゆう琴に触らせてもらいながら、私は歌っていること、ライブで行く土地や来てくれる人に光が降り注ぐようなゆう琴を作ってほしいということを伝えました。一段落した頃、きんちゃんに歌ってみてと言われました。歌ったのは一番最初にやってきた、広島島の歌です。すると歌っている途中で、女の人の声が聴こえてきました。「もっと力を抜いて歌っていいんだよ」と。不思議に思つてきんちゃんに伝えると、実はここは昔美術館で、広島で原爆にあつた画家の大道あやさんが開いた所なんだよと教えてくれました。「もしかしたら、あやさんの声なのかもしれないね」と。あやさんは丸木位里さんの妹さんでもあります。なんとも不思議なご縁を感じる出会いでした。

ゆう琴で歌うようになって、私の唄はどんどんやさしくなつていきました。顔の絵の人たちも、それは同じです。そろそろ顔の絵を燃やす頃かな、そう感じながらも別れがたくて一緒に過ごしていたとき、きんちゃんが提案してくれました。顔の絵の人たちの展示会をおっぺでし、ご縁の人たちに見てもらい、ともに過ごし、最後の日に火を焚いて空に大地に還すのはどうかと。それは私にとつても顔の絵の人たちにとつても、夢のようにうれしい提案でした。そして形になったのが、魂のお祭りです。

お祭りには目に見える人、見えない人、たくさんの方が集いました。囲炉裏ではずっと火が焚かれています。おっぺに流れる川の水をくんでお供えしました。顔の絵の人たちは、まるで最初からここにいたかのように馴染んでいます。泣きたいような、うれしいような、たまらない気持ちで過ごした4日間。最後の日の午後いきんちゃんと2人、顔の絵の人たちを燃やしました。全部で62人。顔の形を残したまま燃えるので、まるで骨のようです。日が落ちだんだんと暗くなっていきます。虫たちの声が聴こえ、途中イノシシも近くにやってきました。全部が終わったとき、頭の上には星が一つ光っていて、不思議なほど気持ち軽やかでした。ああ、彼らは私の広島島の記憶や思いも、一緒に持つていつてくれたのだなと思ひました。

時が流れ私は今、おっぺで暮らしています。山の本々に囲まれ川が流れるこの場所には、たくさん生き物たちがいて、みんなで一緒に生きていることを実感します。そんな日々のなか、私の中で大きく変化したのは「生命」という言葉の意味でした。広島に向き合っていたとき、私にとつて生命とは、生きている人と死んだ人、すなわち人間という意味合いが強かつたように思ひます。今は「生命」とは木や動植物、水や火や風、土や目に見えない菌類、さらには太陽や星や宇宙、人だけではない大きな意味の言葉として実感しています。

『とおやまと』に書かれている矢追日聖さんの言葉で、一番印象に残っているのは、「みんな仲良くね」という言葉です。本当に大事なことだと思ひます。生命みんなが尊重し合ひ、仲良く生きていくこと。それが世界平和なのではないかと、私は思っています。

# 寸 紗

第149回

別所 りか  
べっしょ



## 加美のまにまに

「本当は3姉妹の次女なんです。2年前に死産だった姉がいて、私も切迫流産しかけ3月までに生まれるから危ないと言われていたらしいけれど、4月になってすぐ生まれてます」。今回登場してもらおう別所りかさんは三八豪雪があった1963年(昭和38年)4月1日、大阪市旭区にある大宮神社のすぐ側で生まれました。母・恵美子さんは天理市にある大和神社の氏子で、年に一度の「ちゃんちゃん祭り」と同じ日だったこともあり、感慨もひとしおだったようだ。

父・義郎さんは別所刺繍工業所の2代目を継いでいたが、次男だったため実家を出ることになる。その際、家を買うか、当時は同じぐらいの値段だった外国製ミシンを買うか迷った。「まずは儲けることが先」とミシンを購入し、借家の長屋に住み、

数年後には守口市にマイホームを購入した。

りかさんが幼稚園にも行かない頃のこと、母親のクリームを顔中に塗りたいとしたり、父親がいない間に車を動かして、車庫にぶつけたこともあるという。「親のやることは、なんでもやってみてみたい」子どもだった。小学生の頃は、肥満児だったそう

で、動作が鈍いこともあって、いじめられっ子だった。それでも探究心は強く、特にシヨウジョウバエの生態研究にハマった。「これから本格的に研究出来る」と思ったタイミンで興味の対象を取り上げられるということが繰り返された。その中で唯一残ったのが書道だった。5年生の頃には、たまたま書店で見つけた「痩せる健康食」を親にせがんで買ってもらい実践。中学生の頃はセーラー服も似合って、有志サークルの軽音部に入り、ヴォーカルをした。

塾へ行くためのお金を使い込んで、親に大目玉をくらったり、生活指導の先生に目をつけられ、放課後、暗くなるまで居残り勉強させられた。そのお陰で高校時代の成績はよかった。「書道家になる」という夢を持って、京都橘女子大学の文学部国分学科書道コースへ。第1回読売書法展や日本書芸院展二科に入選した。学園祭ではクラスの出し物をして、かなり儲けたため、学生自治会からスカウトされ、翌年、副委員長として取り仕切った。「その経験が、OLになった時に役立つ」と笑う。平成元年、結納までしていた婚約を「やっぱり違う」とドタキャン。「何も考えていなかった」と振り返るが、後悔はしていない。その後、書道家になることもあきらめた。

1995年、阪神淡路大震災をきっかけに、ご両親は別所刺繍をたたみ家を売却、同志社女子大学の寮母となった。りかさんは6歳下の妹とマンションを借り、20代後半から30代後半までは派遣で働く。燃え尽き症候群のような感じで鬱状態だった。

38歳の頃、体調不良から、鍼灸師・島内薫さんの治療を受ける。その後、気功家・李敬烈さんの勉強会で自力全体のナビゲーター・長谷川玲子さんと出逢う。「こんな簡単なことで身体が直るんやったらええなあ」と

自力整体を学び、最短コースでナビゲーターの道へ。

初めて大倭の地を踏んだのは、2006年3月12日、長谷川さんと一緒に参加した裸会だった。それから、数年間、毎月のように大倭に通った。青山日元さんの「賢くなる勉強は誰でも出来るけど、アホになる勉強は難しいぞ」という言葉が印象に残っている。

「来た仕事はどんな仕事でも断らずにいこう」と心がけていると、「8人で8億稼ぐ会社」に正社員として横滑りで採用。中崎町で一人暮らしをし、林修三さんの有朋塾で中国語を習ったり、様々なセミナーに参加したり、「青春時代が戻ってきたように感じた」。

50代になると、また転職が訪れる。「給料はいいし、辞めたくなかったが、辞めざるをえない流れになって……」退職。今度は、妹さんと同じ市役所で勤めることとなる。それまで、「あんたはええなあ。のほほん」と暮らせて……」と思っていたが、中に入ってみるとビックリ。「人員削減でどんどん忙しくなるし、妹の苦労がわかった」

還暦になったばかり。「大倭は、田舎のおばあちゃんの所に帰るような懐かしい感覚で癒やされています」(聞き手 藤本宏秋)

# あじさい日誌

3月12日 午前10時半から大倭会館で矢追家麻呂教長さんを祭主として井手泉さんの一年祭が行われました。

午後2時から拜殿で大倭会主催の祓会が開かれました。

3月15日 大倭神宮月次祭。

3月18日 午後6時から大倭会館で大倭町自治会の年度替わりの報告会と役員会。

3月23日 大倭大本宮月次祭。

この日は昭和37年3月23日の月次祭法話をお聞きしました(平成19年3月号『おおやまと』に「平和社会は先ず家庭から」として掲載分)。

邑の桜も咲き始め、少し前から鳴き始めた鶯とコロボ?していました。

4月2日 第1日曜日で午前9時から大倭墓地の掃除。

4月6日 大倭神宮月次祭。夜、大倭会館で邑倭の会。

大倭安宿苑では  
3月22日 大倭墓地にて10時30分より教長さんを祭主として慰霊祭。お2人の納骨があります。

(菅原園)

3月18日 プロジェクターを使用、映画館の雰囲気『ワンピース〜FILMED〜』上映。

4月3日 公用車で希望者数名が大和民俗公園へドライブ。

(須加宮寮)  
3月3日 ひな祭りで昼食はお寿司のケーキでした。

(長曾根寮)

3月(デイ) ステンドグラス風「春の壁飾り」を作りました。

3月(特養) ひな祭りのレクリエーション、またペランダの外気浴で目の前に桜を見ました。

(茂毛路園)

3月16日 新型コロナウイルスワクチン接種(5回目)。

4月1日 創立15周年記念日で昼食は創作料理。午後には法人敷地内を散歩してお花見。

(八重垣園)

3月末 少し肌寒い日でしたがみんなでお花見に行きました。

## 表紙写真について

和歌山県岩出市森脇 聖淳

和歌山電鐵貴志川線は、JR和歌山駅から紀の川市の貴志駅までの約10キロの鉄道です。当初、日前宮・竈山神社・伊太祁曽神社への参拝客に利用されていましたが、マイカー時代になり利用客が激減、運営の危機に陥りました。

それを救済したのは猫のタマでした。貴志駅に駅長としてタマが就任。全国各地から猫好きの人々が集まるようになりました。その後、タマをモチーフにしたタマ電車を走らせたり、イチゴ電車、おもちゃ電車など次から次にラッピングカーを走ら

せ、こんにちに至っています。桜のシーズンには沿線で一歩の撮影スポット大池遊園、一度訪れてみてください。

## こたまとたま

▼滋賀県大津市 樋口寛美

1月号に、つたない文を載せていただきありがとうございます。その上、杉山三代研究会会報『民ヲ親ニス』をお送りいただき、杉山龍丸さんの「ふたつの悲しみ」は胸に迫るものがありました。息子の戦死を確かめ声をこらして涙する父、親の戦死を確かめ涙が目につくばかりあふれそうになるのを必死にこらえていた少女。

号泣をこらす日本人の謙虚：我が孫や若者たちの今日、それは美德ではなくなってしまうのかどうか。多分、そうではない。

私たちがその後の団塊世代が、ただただ復興から経済(お金の豊かさ)に急いで、子供たちに「魂」を置き忘れた。その反動が、日本人の美を原色絵具で塗りつぶしたのかもしれない。簡単に銃で人を殺すことを真似るような流行り病に感染した。コロナよりもたちが悪い文化の輸入です。

でも塗りつぶされた絵具をぬぐえば、きっと「魂」も原石を見つけることが出来ると信じます。(後略)

▼神奈川県横浜市 加藤彰彦  
2月号いただきました。若き日の法主ご夫妻の写真、とても新鮮でした。また矢追妙月さんのこと、法主さまの文章も読みいろいろと考えました。杉本さんの沖繩行きもよかったですね。日本列島に沖繩をつなぐ、大きな霊的なつながりも感じています。ゆっくり伺いたいと思っております。年に一度ぐらいの小さな集まりなどあれば、ぜひ伺いたいです。いつも通信を読み、皆さんの情報が分かり楽しみです。

# あんない

\*月次祭(大倭神宮)

5月6日(土) 午後2時より大倭神宮にて。

\*大倭会主催祓会

5月14日(日) 午後2時より大倭大本宮拜殿にて。

\*月次祭(大倭神宮)

5月15日(月) 午後2時より大倭神宮にて。

\*月次祭(大本宮)

5月23日(火) 午後2時より大倭大本宮拜殿にて。

## 第348回大倭会文化行事

### 神泉苑にクシイナダヒメを訪ねて ～春の京都市内散策～

**日にち** 令和5年5月21日(日) 雨天決行

**集合** JR山陰線(嵯峨野線)  
二条駅改札東口に、午前10時半

**交通** 近鉄学園前9:00発奈良行(快速急行)⇒  
西大寺9:03着、9:07発京都行(急行)に乗り換え(なるべく前方車両)⇒京都9:48着、  
JR32番ホーム山陰本線へ徒歩4分。  
10:08発園部行(快速)⇒二条駅10:12着

**行程** 二条駅～(徒歩10分)～神泉苑  
～(徒歩15分)～二条城 ※昼食はお店で

**連絡** 林修三 携帯 080-2527-0840